

2011年3月30日

<プレスリリース>

「内外の化繊工業の動向（2010年年間回顧）」について

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会はこのたび、「内外の化繊工業の動向（2010年年間回顧）」をまとめました。以下はその概要です。

担当： 業務調査グループ （Tel：03-3241-2313）

概 要

(2010 年年間回顧)

2010 年のわが国の景気は、国内総生産が 3 年ぶりにプラス成長に転じるなど回復基調がみられたものの、長期化する円高、デフレ、高水準な失業率などの懸念要因もあり厳しい状況が続いている。先行きについては、当面は弱含みの動きがみられるものの海外経済の改善や各種政策効果を背景に、企業収益の改善などを背景とした回復が期待されている。

化繊景況は、衣料用ではアウトドアブームによる薄地高密度織物、保温肌着、また非衣料用では政策効果により自動車関連需要を中心に回復がみられた。先行きについては円高、原料高になど予断を許さない状況にある。

国 内

- 1) 繊維景況は、衣料用は高密度薄地織物、保温肌着向けなど堅調に推移、中高価格品に動きが見られるなどの明るい要因もあったが、引き続き消費者の節約志向、中高価格品離れは変わらず、百貨店の衣料品売上高は前年比 4.4%減、チェーンストアも 4.7%減と引き続き減少するなど苦戦を強いられた。インテリア用は、カーテン、カーペット関連ではコントラクト向けは事務所・店舗の着工件数の低迷、家庭向けではマンションの発売戸数（首都圏；前年比 22.4%増、近畿圏；9.8%増）、新設住宅着工件数（3.1%増）において改善は見られたが 08 年の水準までは回復しておらず、更に輸入製品への置き換えが一段と進み、いずれの用途も厳しかった。カーシートはエコカー補助金効果もあり順調な荷動きであった。資材用は、自動車関連はシートベルト・エアバッグが順調、タイヤコードもポリエステルは順調、ナイロンも年後半から回復が見られた。また建築関連は、公共投資は引き続き低調、民間投資は企業収益が改善する中で持ち直しの動きが見られた。
- 2) 生産指数は、繊維工業全体では前年比 1.9%増、前々年比 17.1%減。化繊は前年比 24.2%増、前々年比 8.4%減。紡績は前年比 2.0%増、前々年比 28.9%減と、紡績を除き前年比増加した。在庫指数（期末）は、繊維工業が前年比 7.9%減、化繊 7.7%減、紡績 43.9%減といずれも減少している。（生産、在庫とも指数ベースの比較）
- 3) 繊維品輸出は、ドルベースで 89.4 億ドル・前年比 16.9%増、円ベースで 7,828 億円・9.6%増とともに 2 年振りに増加した。形態別（ドルベース）では、繊維原料・27.3%増、糸類・38.0%増、織物類・6.3%増、二次製品・16.6%増と前年の減少から増加に転じた。

主要仕向地別では、西アジアが3.9億ドル・12.7%減と減少した以外は、中国の34.1億ドル・13.7%増をはじめ、アセアン向けもタイ(37.6%増)・インドネシア(39.1%増)・マレーシア(20.2%増)、ベトナム(14.7%増)向けの増加により15.3億ドル・25.3%増。欧州(9.9億ドル・28.0%増)、香港(7.2億ドル・13.4%増)、米国(6.2億ドル・22.9%増)、韓国(1.0億ドル・11.7%増)なども増加している。

4) 繊維品輸入は、ドルベースでは343.9億ドル、前年比6.2%増加したが、円ベースでは3兆14億円・0.7%の微減であった。形態別(ドルベース)では、繊維原料・34.5%増、糸類・38.1%増、織物類・21.6%増、二次製品・4.4%増、いずれも増加したが、二次製品を除き2008年の水準までには戻っていない。主要仕出地別では、中国が262.3億ドル・3.9%増、全体の76%を占めている。アセアンはタイ(16.9%増)、インドネシア(28.2%増)、ベトナム(17.0%増)の増加により34.5億ドル・20.6%増。欧州は主力のイタリアが6.0%減と引き続き低迷しており19.4億ドル・1.1%減。韓国6.4億ドル・14.8%増、米国5.0億ドル・13.8%増であった。

繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	08.1-12	09.1-12	10.1-12	08年比(%)	09年比(%)
輸出	千ドル	9,114,999	7,651,198	8,942,757	-1.9	16.9
計	百万円	941,292	714,549	782,799	-16.8	9.6
繊維原料	千ドル	1,244,286	1,134,397	1,444,243	16.1	27.3
糸類	千ドル	1,102,936	833,305	1,150,012	4.3	38.0
織物類	千ドル	3,348,751	2,708,439	2,878,368	-14.0	6.3
二次製品	千ドル	3,419,027	2,975,057	3,470,134	1.5	16.6
輸入	千ドル	33,232,883	32,380,093	34,386,285	3.5	6.2
計	百万円	3,430,885	3,022,726	3,001,433	-12.5	-0.7
繊維原料	千ドル	733,999	428,187	576,053	-21.5	34.5
糸類	千ドル	1,207,853	817,797	1,129,615	-6.5	38.1
織物類	千ドル	1,273,875	977,472	1,188,941	-6.7	21.6
二次製品	千ドル	30,017,155	30,156,637	31,491,676	4.9	4.4
衣類	千ドル	25,600,710	25,244,021	26,680,980	4.2	5.7
輸出レート	円/ドル	103.3	93.4	87.5	-15.2	-6.3
輸入レート	円/ドル	103.2	93.4	87.3	-15.5	-6.5

(出所) 財務省

5) 化繊生産は991,220トン、前年比18.7%増と、2000年以来10年振りに前年比増加し、2008年比93%の水準にまで回復した。うち、セルロース繊維は168,656トン・10.6%増。合繊は822,564トン・20.6%増。期末在庫は91,495トン・8.5%減、セルロース繊維(11.2%減)、合繊(7.9%減)と、ともに減少した。

化繊輸出(繊維原料～二次製品)は63.0万トン・14.9%増。繊維原料、糸類、織物、

二次製品いずれも前年比増加した。レーヨンSは60%を占める米国向けが円高により30%減強の減少、全体では13%減の13,130ト。ナイロンF28.2%増(21,403ト)、ポリエステルF11.7%増(26,943ト)、ポリエステルS7.5%増(39,464ト)、アクリルS14.7%増(142,429ト)は増加した。織物(面積ベース)は1.6%増の6.3億㎡。二次製品も8.6%増の9.3万トであった。また化繊不織布(重量ベース)は7.1%増であった。

化繊輸入(繊維原料～二次製品)は125.9万ト・13.1%増と2年振りの増加となった。内訳は、繊維原料は5.7万ト・24.2%増、糸類は18.7万ト・37.2%増、織物類は5.3億㎡・19.5%増、二次製品は92.3万ト・8.2%増、うち衣類48.6万ト・3.8%増といずれも増加した。

化学繊維の主要指標

項目	単位	08.1-12	09.1-12	10.1-12	08年比(%)	09年比(%)
化繊生産	千ト	1,071	835	991	-7.4	18.7
セルロース	〃	169	153	169	-0.1	10.6
合 織	〃	902	682	823	-8.8	20.6
化繊在庫	〃	125	100	91	-27.0	-8.5
セルロース	〃	17	17	15	-13.5	-11.2
合 織	〃	108	83	76	-29.2	-7.9
化繊輸出	千ト	657	548	630	-4.2	14.9
	100万ドル	5,484	4,694	5,537	1.0	18.0
	億円	5,665	4,385	4,847	-14.4	10.5
化繊輸入	千ト	1,208	1,113	1,259	4.2	13.1
	100万ドル	13,213	13,015	14,873	12.6	14.3
	億円	13,607	12,105	12,886	-5.3	6.5

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 在庫は生産者在庫で各期末

6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

ポリエステルF：生産は188,451ト・前年比15.6%増と6年振りに前年比プラスとなった。織物生産は36,787万㎡・1.9%減と3年連続で前年比減少した。衣料用はダウンジャケット向けの高密度薄地織物及び裏地が好調、また主力の婦人もここに来て動きが出てくるなど明るさも見られたが力強さに欠けた。非衣料用では、タイヤコードは、リプレイス用の安定需要に加え新車用の回復、更に旺盛な新興国の需要もあり堅調。国内需要の補完を含めタイヤコード織物輸入(18,733ト・53.6%)が大幅に増加している。カーシート、シートベルト、自動車用ゴム資材は、エコカー補助金の終了後の動向が懸念されたが影響は少なかった。家庭用カーテンは年間を通じて不振。各社は2013年からのHBCD規制に向けて、難燃糸の販売に注力をはじめている。網類は、土木・建築用、漁網用ともに低迷した。輸出は、フィラメントは26,943ト・11.7%増。中国(4,829ト・14.2%減)は減少したが、タイ(4,724

ト)・154.4%増)、香港(3,331ト)・23.1%増)、米国(2,762ト)・8.2%増)は増加した。織物は主力の中国(13,332万㎡・11.1%減)の減少もあり27,195万㎡・7.1%減となった。輸入は、フィラメントは105,250ト)・51.7%増。加工糸、POY、普通糸、強力糸いずれも増加している。主な仕出地は、台湾47,287ト) (44.2%増)、タイ14,304ト) (116.5%増)、中国13,509ト) (71.3%増)、インドネシア13,447ト) (53.8%増)、韓国13,410ト) (29.2%増)など。織物は、主力の中国(6,189万㎡・42.6%増)の増加もあり14,652万㎡・21.3%増。

ポリエステルS：生産は158,351ト)・前年比8.3%増、10年振りに前年比プラスとなった。紡績用は回復が見られたが、国内の紡績スペースの縮小は進んでいる。純糸では資材用は安定していたが、民族衣装用の中東向け間輸が輸入生機に切り替わり低調。綿混糸は主力のワーキング・ユニフォーム向けが在庫積み増し需要から回復。レーヨン混糸は輸入糸へのシフトの動きが見られ不振。毛混糸は学校向け制服需要が堅調に推移し、底堅い動きとなった。製綿用は、寝装品は安価な輸入製品や海外原綿へのシフトが続く中、機能綿使いが注目されつつある。不織布用は、リーマンショックからの回復が早かったが、第2四半期以降は生活資材、車両資材などの各分野で需要が後退、特に車両資材向けはエコカー補助金終了後の第4四半期に大きく落ち込んだ。衝材向けは、紙おむつが中国富裕層による需要拡大もあり安定した動きが続いた。生活資材向けは、メディカル分野のパップ剤、解熱シート等の雑品向けが拡大。産業資材向けは、フィルター向けは回復したが、土木関連は低迷が続いた。湿式不織布は、水処理関係を中心に需要は回復した。原綿輸出は39,465ト)・7.5%増。中国(6,358ト) 2.9%減)は減少したが、インドネシア(6,386ト)・77.9%増)、タイ(10,519ト) 9.5%増)、欧州(8,668ト)・13.9%増)、米国(4,603ト)・13.9%増)は増加。原綿輸入は、国内需要の停滞が続く中28,373ト)・25.7%増と大きく増加した。主な仕出地は、中国10,478ト) (60.6%増)、韓国8,132ト) (3.0%減)、タイ4,466ト) (92.4%増)、台湾2,343ト) (8.5%増)など

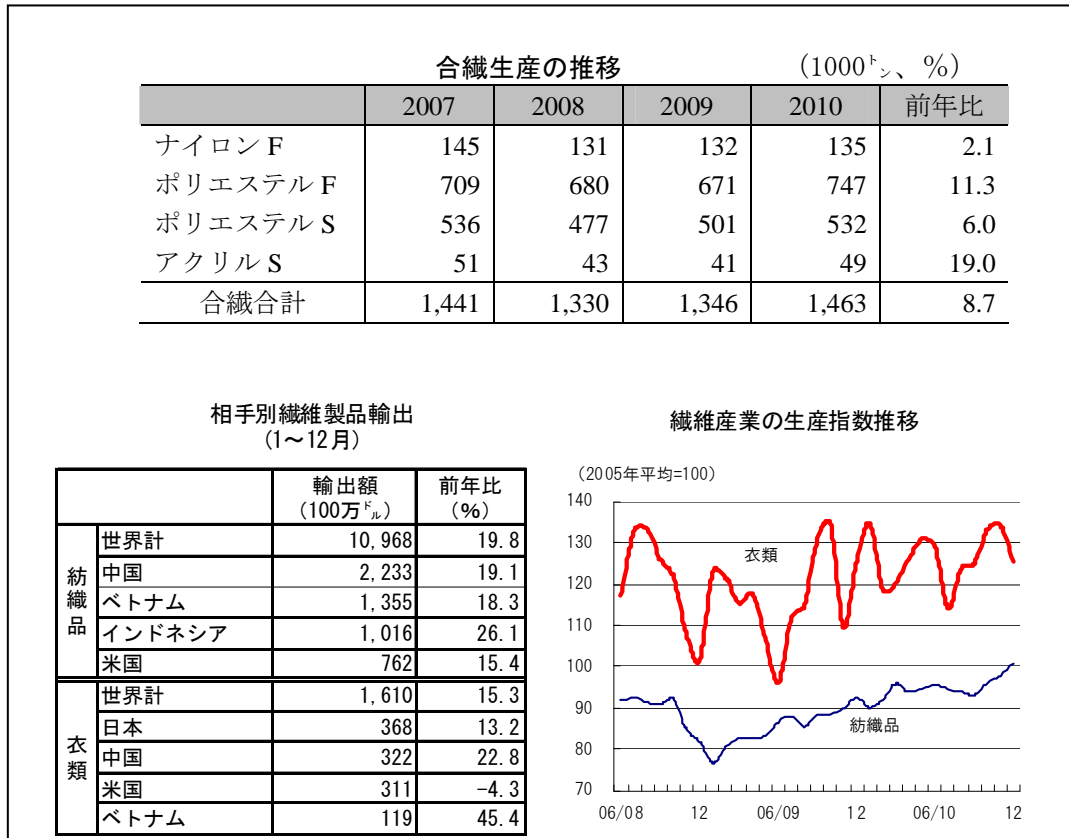
ナイロンF：生産は93,026ト)・前年比26.4%増と10年振りに前年比プラスとなった。織物生産も11,688万㎡・9.7%増と3年振りに前年実績を上回った。衣料用は、レグ関連では「レギンス」や「トレンカ」向けは堅調に推移したが、ここに来て一巡感が見られ、ポリエステルやアクリルなど他素材へのシフトの動きが見られる。定番パンストはカジュアル化もあり低調。アウターは、婦人ボトム(美脚パンツ)のハイテンションニットは、内需及び中国内需向け輸出が順調。またスポーツも、ダウンジャケットが軽量化により好調に推移した。非衣料用は、タイヤコードはキャップフライ用及び建機・鉱山開発用タイヤの好調により堅調であった。エアバッグは順調に回復。カーペットはタイルカーペットが、住宅着工件数が低調に加え、ポリプロピレンへの代替が進み苦戦。自動車用は、高級車のため回復力が鈍く低迷が続いた。ロープは、ホーサーは新造船用、リプレイス用ともに回復コンピュータ

ーリボン向けは円高の進行や安価な中国品との競合で苦戦が続いた。フィラメント輸出は21,403 トン・28.2%増、エアバッグ用などの産業資材用が増加。主な仕向地はタイ6,689 トン(45.3%増)、フィリピン5,152 トン(65.2%増)、中国3,939 トン(28.2%増)、ベトナム1,332 トン(29.5%増)など。織物輸出は10,278 万㎡・30.3%増。中国が5,514 万㎡(43.8%増)と全体の54%を占めている。フィラメント輸入は26,499 トン・33.0%増。主な仕出地は、台湾5,827 トン(53.2%増)、中国3,969 トン(30.7%増)、ドイツ3,264 トン(1.7%増)、米国2,598 トン(20.4%減)など。

アクリルS：生産は141,524 トン・前年比14.5%増と、10年振りに前年比プラスとなった。紡績糸生産は10,905 トン・5.9%増。衣料用は、保温肌着が今シーズンも計画通りの販売で終了するなど前年に続き盛り上がりを見せた。次シーズンについても期待する一方、飽和感から慎重な見方もある。アウターは、薄手のカーディガンやマイクロファイバーと他素材との複合による婦人カットソーが健闘。靴下関係では秋冬用のレギンス・トレンカなどでアクリル使いが増加した。建寝装用は、毛布は中国製のポリエステル長繊維品が店頭を席卷、またカーペットは、ピース・ラグで動きが見られたが、ポリエステルやポリプロピレンへの代替が一段と進み低調。カーテンもポリエステル長繊維への代替が進み市場は一段と縮小している。ステープル輸出は、最大仕向地の中国が72,800 万トン・12.9%増と堅調であった。フェイクファー向け(→中国で製品に加工されて欧米に再輸出される)が、世界的な毛皮需要の高まりで復活。新規需要として、ホームテキスタイルや自動車内装材用、また富裕層向けマイクロファイバー使いのインナーなどの取り組みが進んでいる。インドネシアは14,192 トン・0.1%減の横這い。「紡績糸の供給基地」としてアジア地域に供給している。アフリカ諸国は20,561 トン・30.7%増、インドは3,499 トン・54.3%増と手芸糸用が好調。一方、イランは6,163 トン・33.6%減、同国におけるカーペット向け需要は大きいですが、欧州メーカーとの競合が激化している。

海外

7) 韓国



2010年の合繊生産は、好調な輸出を背景に前年比8.7%増の146.3万トンと、2年連続で前年実績を上回った。品種別では、ナイロンFは2.1%増の13.5万トン、ポリエステルFは11.3%増の74.7万トン、ポリエステルSは6.0%増の53.2万トン、アクリルSは19.0%増の4.9万トンであった。

繊維品輸出は20.1%増の139.1億ドル、2年ぶりに前年実績を上回った。段階別では、繊維原料29.8%増の13.6億ドル、糸類34.8%増の15.7億ドル、織物類19.4%増の32.2億ドル、衣類等二次製品16.6%増の75.8億ドルといずれも増加した。仕向け地では、中国は20.4%増の27.5億ドル、ベトナムは19.1%増の15.6億ドル。アセアンは、韓アセアンFTA発効により23.1%増の34.7億ドルとなった。2011年中にEU、米国とのFTAの発効が予定されており、欧米向け輸出の回復が期待される。繊維品輸入は33.8%増の101.6億ドル。段階別では、繊維原料31.6%増の9.5億ドル、糸類48.3%増の22.3億ドル、織物類31.0%増の11.7億ドル、衣類等二次製品18.6%減の41.7億ドル。主な仕出地は、中国(31.4%増の53.5億ドル)、アセアン(56.4%増の17.5億ドル)などである。

8) 台湾

合繊生産の推移					(1000 ^{トン} 、%)
	2007	2008	2009	2010	前年比
ナイロンF	384	302	287	358	25.0
ポリエステルF	1,223	1,012	1,010	1,111	10.0
ポリエステルS	550	476	540	578	7.2
アクリルS	137	84	111	102	-8.3
化合繊合計	2,432	1,979	2,055	2,248	9.4

相手別繊維製品輸出 (1~12月)			主要繊維品生産 (1~12月)			
	輸出額 (100万 ^{ドル})	前年比 (%)		単位	生産量	前年比 (%)
世界計	11,301	20.9	合成繊維	千 ^{トン}	2,154	7.6
中国	2,542	23.2	ポリエステル加工糸	千 ^{トン}	711	8.0
ベトナム	1,511	28.6	ポリエステル織物	100万 ^{m²}	1,173	10.7
香港	1,462	15.1	各種衣類	千 ^{ダース}	6,616	9.2
米国	983	16.0				
インドネシア	541	25.5				
タイ	367	30.2				
日本	349	27.5				

2010年の繊維景況は回復基調が続いた。繊維品輸出は100億^{ドル}台を回復するなど好調な輸出を背景に、繊維生産は各段階とも増加、化合繊も9.4%増の224.8万^{トン}と2年連続で前年実績を上回った。品種別では、ナイロンFは25.0%増の35.8万^{トン}、ポリエステルFは10.0%増の111.1万^{トン}、ポリエステルSは7.2%増の57.8万^{トン}は増加したが、アクリルSは8.3%減の10.2万^{トン}は減少した。

繊維品輸出は20.9%増の113.0億^{ドル}と6年ぶりに前年実績を上回った。段階別では、繊維原料は22.9%増の11.2億^{ドル}、糸類は25.3%増の22.5億^{ドル}、主力の織物類は21.4%増の67.2億^{ドル}、衣類等二次製品は9.3%増の11.6億^{ドル}となった。化合繊輸出(数量ベース)は前年比5.2%減の108.2万^{トン}と減少した。仕向地別では、中国は23.2%増の25.4億^{ドル}、ベトナムは28.6%増の15.1億^{ドル}、香港は15.1%増の14.6億^{ドル}といずれも増加した。中国向けは、ECFA(两岸経済協力協定)の発効により、2011年1月以降多くの繊維品目が無税になることから更なる拡大が見込まれている。

繊維品輸入は32.6%増の29.0億^{ドル}。段階別では、繊維原料は50.4%増の6.3億^{ドル}、糸類は65.4%増の4.6億^{ドル}、織物類は27.1%増の4.8億^{ドル}、衣類は19.8%増の13.4億^{ドル}といずれも増加した。

9) 中国

主要繊維品の生産推移					
	2007	2008	2009	2010	前年比 (%)
化合繊 (1000 トン)	23,506	23,848	26,739	30,897	15.6
合繊 (1000 トン)	22,018	21,752	24,569	28,524	16.1
紡績糸 (1000 トン)	19,956	21,343	23,895	27,169	13.7
短繊維織物 (億 m)	486	539	549	655	19.5
化繊織物 (億 m)	132	144	148	171	15.1
衣 類 (億点)	202	222	240	285	18.6

化学繊維の品種別生産推移 (1000トン、%)					
	2007	2008	2009	2010	前年比
レーヨン	1,543	1,323	1,696	1,835	8.2
ナイロン	966	1,120	1,441	1,618	12.3
ポリエステル	19,251	19,249	21,542	25,133	16.7
アクリル	801	554	692	657	-5.0
ポリプロピレン	297	260	280	338	20.8
ポリウレタン	198	168	223	274	22.8
化合繊合計	23,506	23,848	26,739	30,897	15.6

相手別繊維製品輸出 (1~12月)			繊維業界の主要指標 (1~11月)			
	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)		単位	指標	前年比 (%)
世界計	2,120	23.8	企業数	万社	5.5	-
アジア	892	17.1	赤字企業数	万社	0.7	-18.3
香港	150	7.1	主要業務収入	億元	41,678	28.0
日本	232	5.3	利潤総額	億元	2,054	54.6
韓国	55	30.6	工業総生産額	億元	42,761	27.0
アセアン	150	35.9	就業人数	万人	1,120	3.7
EU	458	23.6	繊維産業実際投資	億元	1,934	26.9
米国	356	27.9	うち化繊産業	億元	340	49.3

2010年の繊維景況は、繊維品輸出の回復に加え、衣料用、産業用の内需向けが引き続き大きく拡大した。その一方で、原料・綿花価格の高騰、化合繊を中心に過熱する投資などの懸念材料も浮上している。2011年から始まる第十二次五カ年計画では、繊維産業は、技術開発、省エネ/環境保護のスタンスから、構造改革を進め、差別化、高性能繊維、環境対応繊維の開発に注力する意向。

繊維生産は川上～川下までいずれの段階とも2桁の増加となった。化合繊は前年比15.6%増の3,090万トン。世界に占めるシェアは64%に達したと見られる。品種別では、

レーヨン^トは 8.2%増の 184 万^ト、主力のポリエステルは 16.7%増の 2,513 万^ト、ナイロンは 12.3%増の 162 万^ト、アクリルは 5.0%減の 66 万^トであった。紡績糸は 13.7%増の 2,717 万^ト、短繊維織物は 19.5%増の 655 億 m、衣類は 18.6%増の 285 億点となった。

繊維品輸出は 23.9%増の 2,091 億^{ドル}と 2 年ぶりの増加、初めて 2,000 億^{ドル}を突破。段階別では、繊維原料は 53.3%増の 23.7 億^{ドル}、紡織品は 28.5%増の 768.8 億^{ドル}、衣類等二次製品は 21.0%増の 1,298.3 億^{ドル}となった。仕向地別では欧米向けが 2 割を超える増加、またアセアン向けも中国-アセアン FTA の効果もあり 36%の大幅増となった。

繊維品輸入は 36.5%増の 305.5 億^{ドル}。段階別では、繊維原料は 85.4%増の 103.7 億^{ドル}、紡織品は 18.3%増の 176.7 億^{ドル}、衣類等二次製品は 36.4%増の 25.1 億^{ドル}。なかでも綿花は 2.66 倍の 57 億^{ドル}となった。

10) 米国

2010 年の繊維景況は紡織工業の生産指数が前年比 12.5%上昇するなど回復基調となった。合繊生産は 12.4%増の 274.3 万^ト。品種別では、ナイロン F は、紡織用は依然不振ながら産資用、カーペット用の回復で 12.5%増の 57.5 万^ト。ポリエステル F は、産資用、カーペット用、紡織用ともに増加し、24.0%増の 49.4 万^ト。オレフィン F は、モノフィラメント・スパンボンド・フィルムファイバー向けの増加により 14.7%増の 84.4 万^ト。ナイロン S は大半を占めるカーペットで品種代替が加速し、前年比半減の 4.1 万^ト。ポリエステル S は 12.6%増の 59.4 万^ト。綿花価格の高騰を背景に紡績、詰め綿が、また不織布も増加した。オレフィン S は 5.0%増の 19.6 万^トであった。

主要合繊の生産高 (1000^ト、%)

	2009	2010	前年比
ナイロン F	511.2	575.4	12.5
産資用	53.0	64.4	21.5
カーペット用	426.5	479.6	12.5
紡織用	31.8	31.4	-1.1
ポリエステル F	398.2	493.7	24.0
産資用	102.7	128.5	25.0
カーペット用	154.7	189.8	22.7
紡織用	140.8	175.4	24.6
オレフィン F	735.5	843.9	14.7
ナイロン S	80.9	40.6	-49.9
ポリエステル S	527.6	594.1	12.6
オレフィン S	186.2	195.5	5.0
合繊計	2,439.6	2,743.1	12.4

(出所) FEB

紡織工業全体の生産指数は前年比 12.5%の上昇となり、とりわけ生地製造業が 16.6%上昇と大きく改善した。その一方で、紡織製品は主力のカーペットの回復が遅れていることもあり 0.7%の上昇にとどまった。衣料も輸入品の増加もあり 0.7%増とほぼ横ばいであった。

繊維製品輸入は前年比 15.2%増の 933 億ドル。仕出地別では、中国が 21.1%増の 385 億ドル。ベトナム、インド、インドネシア、バングラデシュといったアジアからの輸入が増加している。その一方で、メキシコ、カリブ海沿岸諸国は世界平均の伸びを下回り、シェアを低下させている。衣料輸入は 13.1%増の 714 億ドルであった。中国が 19%増と大きく増加し、シェアは前年の 37.2%から 39.2%に拡大した。

11) 欧州

合繊生産は、産資用ナイロン F が前年比 29.1%増の 11.9 万トン、紡織用ポリエステル F は 20.7%増の 28.0 万トン。アクリル S は 0.4%減の 56.4 万トンであった。産資用ポリエステル F およびポリエステル S は、2010 年より統計対象が変更されたため比較不能。

	主要合繊の生産高				前年比
	2007	2008	2009	2010	
産資用ナイロン F	128.0	118.4	92.1	119.0	29.1
紡織用ポリエステル F	433.6	300.5	231.8	279.9	20.7
産資用ポリエステル F*	223.4	179.9	97.3	144.6	...
ポリエステル S*	685.9	582.5	503.8	648.3	...
アクリル S	664.0	571.4	566.5	564.3	-0.4

(出所) CIRFS (注) *2010 年よりベラルーシを含む

EU27 の紡織工業の生産活動は回復基調を見せ、生産指数は 8.1%の上昇となった。主力のドイツ、イタリアは 2 桁の上昇となったが、フランス、英国は 1 桁の上昇にとどまった。衣料工業については 0.9%上昇にとどまった。

EU27 の繊維製品輸入は 6.8%増の 1,169 億ドル。域内市場の回復が遅れ 08 年比では 6%減。仕出地別では、中国が 8.3%増の 487 億ドル、ベトナムは 9.8%増、インドは 4.3%増であった。バングラデシュは低コストを背景に引き続き増加。トルコ、チュニジア、モロッコといった近隣国は、アジア勢との競争もあり低調であった。近隣 3 国の域外輸入全体に占める割合は 08 年の 20.2%から 2010 年には 18.4%に縮小している。

JCFA

合繊4品種需要実績

I. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2010年10～12月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	22,225	103.3	107.3
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	50,511	101.2	106.4
	計	72,736 (28,271)	101.8 (106.2)	106.7 (121.0)
輸出 (原糸、加工糸)		3,638	82.9	82.6
需要計		76,374	100.7	105.2
在庫		16,380	91.1	82.5

(注)国内需要の()内数値は輸入量

II. ポリエステルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2010年10～12月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む。)	5,627	85.4	106.5
	非紡績用 (加工品輸出用含む。)	32,401	98.5	94.7
	計	38,027 (8,631)	101.1 (121.6)	100.1 (123.5)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		7,687	108.6	98.9
需要計		45,714	102.3	99.9
在庫		20,767	90.2	89.5

(注)国内需要の()内数値は輸入量

III. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2010年10～12月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	10,913	105.5	114.0
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	16,358	98.7	103.4
	計	27,271 (6,521)	101.3 (97.0)	107.4 (115.3)
輸出 (原糸、加工糸)		3,086	89.6	79.7
需要計		30,357	100.0	103.7
在庫		10,043	101.9	91.6

(注)国内需要の()内数値は輸入量

IV. アクリルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2010年10～12月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	3,843	66.2	112.9
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	2,222	85.6	93.7
	計	6,065 (334)	72.2 (58.0)	105.0 (87.9)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		28,889	97.4	106.7
需要計		34,954	91.8	106.4
在庫		9,389	115.7	80.3

(注)国内需要の()内数値は輸入量